

地域の歴史を伝える役割を担った。その仕事も残すと30年。膨大な作業に関わり、悔いのない一歩を踏み出したと語っている。

昭和53年に入区し、最初に配属されたのが中央図書館の前身の豊島図書館だった。旧区役所別館、当時振興会館と呼ばれていた建物の3階にあった。その後、池袋図書館の開設に伴って、また中央図書館に戻って一般書の収集やボランティアの育成などに携わった。担当したのは2年ほどに過ぎなかったが、そこで公務員の仕事は地域のなかの中にあることと、担当したことは自分自身にとり、大きな経験となった。担当したことは自分自身にとり、大きな経験となった。担当したことは自分自身にとり、大きな経験となった。

次に担当したのは移動図書館だった。目的、駒込図書館が開設し、旧体制になり、たばかりの頃で、図書館空白地帯を埋めようとして、小型バスを改造した「あけぼの号」を区内約30か所を巡回した。雨の日も風の日も月1回の巡回を心待ちにして、利用者がたかさんびた。公共図書館の専任として言われた日野市立図書館もマスターとして移動図書館からだった。担当したのは2年ほどに過ぎなかったが、そこで公務員の仕事は地域のなかの中にあることと、担当したことは自分自身にとり、大きな経験となった。



矢作 豊子 巻頭言
豊島区政策経営部広報課 区史編さん専門員 区史編さん 豊子 豊島区

1942年大正大学で新聞記者となり、1965年TBS入社。ラジオ、テレビの制作担当、2009年大正大学文学部教授。フットボール（サッカー）を愛し続ける。その仕事も残すと30年。膨大な作業に関わり、悔いのない一歩を踏み出したと語っている。

九州の農村の小学校で、私はたったひとりのメカガネだった。4年に進級した年、母に連れられて教員の研修会に行きました。研修会では、先生方の話を聞き、その思いが強く、心に残りました。「メカガネ、チカメ」と呼ばれ続け運動音痴のように扱われ、仲間との卓球では常に補欠でした。そんな私を救ってくれたのは、広島カープの高卒ルーキー、阿南直樹選手。後に盟友古葉と共に、弱小球団を無敵の赤ヘル軍団に育てた二人。そして、もうひとりのメカガネの投手。立教大学で長嶋と同窓の杉浦忠。私の西鉄ライオンズに立ち上ったのは、南海ホークスの大工一。福岡の夏、7月は山笠、8月はホークスと3連戦。高校生になって初めて平和台野球場のナインで、杉浦を見守ることができた。高校生活は、メカガネは消耗品となる。この時代の地方球場を舞台にした直木真作作家の小説と共に、二人のメカガネのフットボール選手は忘れ得ぬヒーローであり続ける。

メカガネでもフットボール選手になれるんだ！

第7回 「メカガネのヒーロー二人」

NPO法人「としまの記憶」を代表する小櫻 英夫

「大切な人なな」をめぐって

あなたの身近にSDGs

こちらのコーナーでは、ランダムに17のSDGsゴールをご紹介します！

今週のゴールは **14** 海の豊かさを守ろう

としまでできるSDGsチャレンジ

1. マイバッグやマイボトルを持ち歩き、プラスチックごみの排出を減らそう
2. 環境にやさしい食器用洗剤・洗濯洗剤を使う
3. 海の生き物について関心を持ち、水族館などで生態系を調べてみよう

出典：「としまSDGsチャレンジブック」2021年 豊島区

『としまSDGsチャレンジブック』の詳細内容はこちら

PDF 9.7MB



豊島区SDGs特設ホームページ「としまSDGsアクション」も是非ご覧ください！



川からのごみの流入による海洋汚染や、魚や貝などの漁業資源の乱獲により、海の資源は危機にさらされています。海や沿岸に生息する生物を管理し、持続可能性を守る取り組みを進めていかなければなりません。

発行 ● 豊島区立中央図書館
〒170-8442 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル4階・5階
電話 ● 03-3983-7861
FAX ● 03-3983-9904
ホームページ ● <https://www.library.toshima.tokyo.jp/>
発行日 ● 令和4年10月

豊島区立中央図書館報

としま文化の日
SDGs未来都市としま
TOSHIMA SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

図書館通信

第65号
季刊（秋）
2022

祝！ 豊島区制施行90周年

- ～輝く未来 開こう としま新時代～
- 巻頭言 …… 豊島区広報課 区史編さん専門員 矢作 豊子
 - 記憶のなかの人たち …… NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会副代表理事 小櫻 英夫
 - 図書館と私～まちの中での場の創出～ …… 豊島区立中央図書館 司書
 - 生涯の一冊 …… 豊島区立南池袋小学校 6年 山田 凛斗
 - この本カフェ「川」 …… としまコミュニティ大学ナビト生
 - マンガ・アニメで多文化理解！？ …… 東京外国語大学卒業生 村瀬明日香
 - 監修：東京外国語大学大学院 准教授 幸松 英恵
 - 図書館から見る豊島区の歴史 …… 豊島区立千早図書館 司書
 - 仙台文学館特別展「山内ジョージ 文字絵の世界」… 仙台文学館 学芸室 伊藤美菜子
 - 千早図書館の歩み …… 豊島区立千早図書館長 鈴木 敦





豊島区立南池袋小学校6年
山田凜斗 (やまだりんと)
小学1年の時に忍者のまきびし作りから調べ学習の楽しさを知る。
毎年「調べる学習コンクールinとしま」に挑戦し、昨年「ぼくと石炭」で豊島区長賞を受賞。



■僕は自分がみたことしか信じない
文庫改訂版
幻冬舎文庫 2013年
内田篤人 / 著

「こんな時こそ本を読もう」

依頼があった時、最初に頭に浮かんだのは「しまった！」という言葉でした。僕は本をたくさん読みません。図書館関係者の皆さん、すみません。調べ学習ではいつも本を探すのを手伝って頂き感謝しています。
僕にとって本は情報を得るための道具の一つです。新聞、インターネットも同じ。欲しい情報を得るためには理由があります。情報が欲しい時、僕にとって一番の道具は、自分が体験したいという行動力です。だから、情報は家の中や、外や、電車に乗って行った先に転がっているものでもあります。そんな僕なので少し申し訳ない気持ちになりますが、最近見つけたとっておきの本を紹介したいと思います。

僕は地域のクラブや豊島区の選抜チームでサッカーをしています。中学でも本気でサッカーを続けて行きたい、そのためにもっと成長したいと思う上で悩むことがたくさんあります。

紹介するのは、内田篤人の「僕は自分が見たことしか信じない」という本です。既に引退していますが、内田選手はサイドバックのスペシャリストとして、鹿島アントラーズや海外で活躍した選手です。最初は中学の時からチームにも監督にも恵まれてプロになっていく話にうらやましいなと思いました。才能がある人はいいなと。しかし、プロになってから睡眠薬なしでは眠れないほど精神的なプレッシャーや体の疲労に苦しめられたそうです。自分がそうになったら逃げたらいけないと胃が痛くなりました。でも、内田選手は逃げなかった。サッカーをしたいという精神がすごく強いのだと感じました。

見習いたいと思ったのは、周囲の人との関わりや思いです。行動に迷った時、何度もコーチやチームメイトに助けられたそうです。それは内田選手の真剣にサッカーをしたいという強い思いが伝わっているからだと思いました。

僕も自分が見たことしか信じない方ですが、それは周りの言葉に耳を傾けつつ最後は自分が判断する、行動に責任を持つ覚悟なんだと思います。これを書いている間に僕はケガをしてしまいました。もう一度この本を読み返したいと思っているところです。

図書館と私 50

～まちの中での場の創出～

第3回
(全4回)

豊島区立中央図書館 司書

「移動図書館と公園等の活用」

豊島区には大きい公園、小さい公園を合わせると160ほどの緑あふれる公園があります。区内を歩いていると「あら？こんなところに気持ちのいい公園が…」と知らなかった公園に出会うことがあり嬉しくなります。そんな公園のいくつかに、「PARK TRUCK (パークトラック)」という車で図書館の本を持って行き、自由に手に取って読んでいただくという穏やかな活動が4年ほど続いています。これは豊島区公園緑地課の「中小規模公園活用プロジェクト」の一環で、実施日には親子連れが木陰でゆっくりと本を楽しむ姿が見られるそうです。この活動のために図書館では司書が選びに選んだ絵本や紙芝居、ビッグブックを毎回貸し出ししています。そして活動終了後にはお子さんの反応や親御さんの様子などを伺って参考にし、楽しみにして下さっている皆様を思い浮かべて次回の本をあれこれ考えて選ぶのがとても楽しみです。

豊島区では半世紀以上前、まだ区内に充分な数の図書館がなかった頃に「あけぼの号」という移動図書館が区内各所を回って本を手渡し、区民の皆様に喜ばれていました。「誰一人取り残さない」という、SDGs未来都市である豊島区の考え方はこんなに以前からそうであったのかと今更ながら驚きます。

区内に8つの図書館が建つと、移動図書館はその役割を終えました。しかし、移動図書館というスタイルは現代でもしっかりと馴染むのではないかと思いを馳せてしまいます。真っ赤でキュートなイケバスが元気に走り回る池袋地区ですが、もし今ちょっとお洒落な現代版の移動図書館が豊島区内の公園などを結んで走ったら、どうでしょう？ 様々な理由で図書館に足を運べないかたに本を1冊でも手渡すことができ、また、本がつながる人と人の循環(わ)が自然にできるかもしれません。近くの公園などに移動図書館がやって来たら、そこのにぎやかに地域の人が集う「場」となってくれることでしょうか。



Café KONOHOH
この本カフェ

29杯目

今回のテーマ

川

豊島区内には暗渠となった川がいくつかある。いまは道になっているけれども、ふとした瞬間に足下から水の流れる音が聞こえてくる。過去から未来へ、今の世代から次の世代へ、生から死そしてまた生へなど、川が喚起するイメージは多様である。



書名 『すらすら読める 方丈記』

中野孝次 / 著 講談社文庫 2012年10月

「ゆく河の流れは絶えずして」。これは「方丈記」の冒頭のことばで、鴨長明が流れてやまめ賀茂川の水を眺め入った時の身上と記されています。本書には良い所が三つあります。原文に総ルビが振ってある、原文を朗読出来る、日本語のリズムを味わえる、という点です。鴨長明の内声が聞こえてくるようです。特に気に入っている箇所は「ここに、六十の露消えがたに及びて」と「方丈の庵想像図」。皆さん、タイムスリップ出来ますよ。

⇒ 【石関 慎一 (いしぜき しんいち)】



書名 『ムスメからおとうさんへ。: いろんなキモチぐるぐる』

k.m.p.(ムラマツ エリコ・なかがわ みどり) / 著
東京書籍発行 2019年6月

「もう仕事はしない。だって仕事するには、性格悪くしないといけないから！」と吐露できるお父さんが素敵♡ 著者のk.m.p.は、旅行記や絵をかいたり、雑貨をつくったり、ジャンルにこだわらないものづくりをしている二人のデザインユニット。両極端な二人と五歳から八十歳の五十人以上のムスメたちが「おとうさんへの思い」を語ります。人生はアート=表現すること。未来のおとうさん、ムスコのあなたもいろんなキモチを話してみませんか？

⇒ 【砂塚 寛子 (すなづか ひろこ)】



書名 『天文学者が解説する宮沢賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅』

谷口義明 / 著 光文社新書 2020年7月

謎めいた不思議な宮沢賢治は、『銀河鉄道の夜』で果てしない悠久の宇宙を語りたかったのだろうか。銀河鉄道に乗り合わせた若者の自己犠牲的な振る舞いから、人の幸せとは何かを追い求めようとしたのか。テーマはダイヤモンドの輝きのように多面的である。著者谷口義明は、超新星を発見し、最前線で活躍する天文学者である。数々の賢治特有の天文用語が登場するこの童話を、天文学者の立場から次々と読み解いていく。賢治の描く世界への理解が更に深まると同時に、深遠な宇宙の世界にいつの間にか引き摺り込まれる。二重にも三重にも大きな満足感を得られる稀有な新書である。

⇒ 【久保田 仁 (くぼた じん)】



マンガ・アニメで多文化理解?

～7つの国と地域の学生がお互いの文化を楽しみながら学び・共感したことは～

「東アジア文化都市2019豊島」でも、西安(中国)と仁川(韓国)と豊島区をつないだ一つの文化が日本のマンガ・アニメ。多文化共生の視点で一度読み終わったマンガ・アニメを手にとると…。そこには「相手を知る・自分を知る」新たな発見が!!

「妖怪にみる各国の歴史・文化と多文化共生への道」

東京外国語大学 言語文化学部2022年3月卒業
村瀬 明日香(むらせ あすか)



私は「アニメ・マンガを使って探究しよう!」というオンライン短期日本語・日本文化研究プログラムに日本人学生として参加しました。私のグループでは、ジブリ作品『平成狸合戦ぽんぽこ』にみる妖怪の正体をテーマに、日本・韓国・リトアニアの妖怪を比較し、妖怪が持つ意味について探究しました。

日本と韓国の妖怪を比較する上で参考にしたのが『民話で知る韓国』という本です。韓国の民話が多く記載されており、読みやすい1冊です。著者は韓国で生まれ育ち、日本に留学した後、日本で家庭を持ち暮らしています。そのため、この本では韓国の妖怪の特徴について、日本人が理解しやすいように解説されています。日本人にとって妖怪は身近な存在であり、常識のように河童やのっぺら坊などの妖怪を知っています。韓国にももちろん、国民の誰もが知っているような妖怪が存在するのですが、日本と韓国の民話の間には微妙な違いがあり、それはその国の歴史の違いを反映していると考えられます。それならば、民話を読むことでその国の歴史と文化を知ることができ、先祖から受け継いできた文化を吸収できると思います。

11日間のグループでの探究活動の後、最終発表を行いました。最終発表の要

点としては、韓国・リトアニアの妖怪と比較して、日本の妖怪は人を殺すという特徴がみられること、そしてそれは日本の妖怪が、自然災害に対する恐れが投影されて生み出されたという背景を持つためとされています。つまり、自然災害は誰にでも起こりうるもの、理不尽に人の命を奪うものであることで、日本の妖怪も人を殺すという特徴を持つに至ったのです。このように、日本の文化は日本に住む人々が創造したものであり、その起源や意味は社会や地理環境と密接に関わっていることを探究活動から学びました。

プログラムでは、他の国の学生と協働する場面が多くありました。私のグループは計5名で、私以外に韓国の大学生3人とリトアニアの大学生1人が参加しました。皆、日本文化であるアニメやマンガに興味があり、それが日本語を勉強するきっかけになったようでした。フリートークという留学生と自由に話せる時間には、好きなアニメ・マンガの話や日本の観光地の話などの共通の話題が多く見つか、話が途切れることがありませんでした。同様に、私自身がイギリスに留学した際にも、日本に対してポジティブなイメージを持っている外国の方が多くいたのを思い出しました。それはアニメ・マンガのお陰と言っても過言ではないでしょう。母語や国籍は異なっても、アニメ・マンガなどの日本文化が介在することで、相手とグッと距離を縮めることができました。改めて、日本文化の持つ力を感じ、多文化共生をする上で「文化の共有」の役割は大きいということに気づきました。つまり、多文化共生の道は、私たちが自国の文化を大事にしながら、他国の文化も尊重することで実現されると思うのです。

監修 東京外国語大学 大学院国際日本学研究院
准教授 幸松 英恵(ゆきまつ はなえ)

プロフィール: 専門は日本語学。豊島区図書館経営協議会委員。

YouTubeで
動画も配信中!!



東京外国語大学オープンアカデミー短期日本語・日本文化研修プログラム「アニメ・マンガを使って探究をしよう!」受講学生の連載コラム。2022年1月～2月、東京外国語大学にてオンライン日本文化研修が実施された。国内外の学生がZoomで繋が、アニメ・マンガから日本文化の特徴を探究した。

図書館から見る豊島区の歴史

図書館というものは、これまでどのような道をたどり、今後どのような役割を果たしていくのでしょうか。区制施行90周年を迎えた豊島区の区立図書館が歩んできた歴史を振り返り、未来へ向けた展望をご紹介します。

サービスの変遷 誰もが使いやすい図書館へ

豊島区立千早図書館 司書



豊島区では1958年に初めての図書館が開館してから、皆さまが利用しやすいように少しずつサービスを変えてきました。

当初は団体貸出のみでしたが、1966年には個人貸出を開始。さらに1969年からは現在のように書架から自分で本を探して借りることのできる開架方式で貸出ができるようになりました。その後も日曜と祝日の開館や開館時間の拡大、インターネットで資料の検索や予約をできるようにするなど、サービスを充実させてきました。近年では誰もが利用しやすい図書館を目指して、図書館HPに音声読み上げ機能をつけたり、中央図書館ではQRコードを読み取ることで目的地まで案内するアプリ「shikAI」を最寄り駅の東京メトロ有楽町線東池袋駅から続く点字ブロックに導入したり、7月に開催した豊島区制90周年「にぎやかな公共図書館フェスティバル」ではすべてのプログラムに手話通訳をつけたりしています。

実は、豊島区立図書館は全国の公立図書館の中でもいち早く障害者向けのサービスを実施してきました。今回は、中央図書館に併設されている点字図書館「ひかり文庫」についてご紹介したいと思います。

「ひかり文庫」は1970年に区内在住の視覚障害者に点字図書や声の図書の貸出を行なうため発足し、1972年に身体障害者福祉法第34条で規定された情報提

供施設として厚生労働省より認可されました。視覚に障害のある方や活字による読書が困難な方のために点字図書や録音図書、さわる絵本、テキストテイジー(文字と画像からなる電子書籍)などの貸出、点字指導、読書相談などを実施しています。

録音図書は当初はオープンリールテープでの貸出でしたが、カセットテープを経て、現在はデジタル録音図書(音声テイジー図書)がメインになりました。テイジー(DAISY)とは「Digital Accessible Information System」の略で、情報をアクセシブルにするために世界50か国以上で採用されている国際標準規格です。音声テイジー図書はCDの形で貸出されるほか、「サビエ図書館」という視覚障害者等のための電子図書館にデータがアップロードされているので、全国の「サビエ図書館」の利用者がダウンロードできるようになり、利用しやすくなっています。

図書の製作については、点訳や音訳などでボランティアの方々にご多大なご協力をいただいております。「ひかり文庫点訳研究会」「ひかり文庫朗読会」「拡大写本グループ」の3つのボランティアグループが活動しています。所蔵している点字図書・録音図書などのほとんどがボランティアの方々によって製作されていて、製作には読みの調べや校正、図や写真などの音訳も行なうため、1タイトルを作成するのに数か月かかります。「ひかり文庫朗読会」では、定期的に勉強会も実施しているそうです。

このようなボランティアの皆さまの活動によって、ひかり文庫は成り立っています。ボランティア募集は広報としまに掲載されますので、興味のある方はチェックしてみてください。

誰もが利用しやすい「にぎやかな公共図書館」を、共に作り上げていけたらと思っています。



「下からわかる図書館の障害者サービス
誰もが使える図書館を目指して」
佐藤聖一 著 学文社 2015年

仙台文学館 特別展

「山内ジョージ 文字絵の世界」

仙台文学館 学芸室 伊藤美菜子 (いとうみなこ)

「トキワ荘」の住人であった、漫画家でイラストレーターの山内ジョージさんは、宮城県登米市の出身です。

山内さんは、昭和15年に大連で生まれ、終戦後の昭和22年に日本に引き揚げると、父の郷里であった宮城県で育ちます。子どもの頃から漫画が好きで、手塚治虫や馬場のぼるに憧れ、ファンレターをたびたび送っていたといいます。中学2年の夏休みに地元紙「河北新報」に投稿した四コマ漫画が掲載されたのをきっかけに、伯母の紹介で、隣りに住む小野寺章太郎 (のちの石ノ森章太郎) と出会います。高校卒業後、石ノ森章太郎のアシスタントとなり、漫画家としては、トキワ荘最後の住人となりました。やがて、イラストレーションに機運を見出し、動物文字絵を生み出します。漢字やひらがな、アルファベットのみならず、世界の言語で文字絵を展開し、カンボジアの女性たちの識字率向上にも貢献しました。80歳を超えた現在も、さまざまな人との交流の中で活動を続けておられます。

仙台文学館では、12月11日まで、山内さんの人となり、その作品世界を紹介する特別展「山内ジョージ 文字絵の世界」を開催しています。トキワ荘時代の貴重な写真、文字絵の原画の数々や、高さ2メートルほどもある大判の一枚ものの和紙に、宮城県にゆかりのある物で表現した「宮城」の文字絵など、あたたかで親しみのある作品が展示室にあふれています。

本展を開催するにあたり、豊島区立中央図書館様、豊島区立トキワ荘マンガミュージアム様に多大なご協力をいただきましたことに御礼申し上げますとともに、これを機に交流が続いていきますことを願っています。

最後に、本年、豊島区制90周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

トキワ荘に住み、活動をしていたマンガ家の山内ジョージさんの特別展が、仙台文学館と豊島区立図書館を繋げていただきました。特別展に合わせ仙台文学館様よりご寄稿・区制90周年のお祝いのことばをいただきました。※豊島区立中央図書館は2021年に「山内ジョージ展「マンガから世界の文字絵」」を実施



©山内ジョージ ゴリラ舎



「仙台文学館外観」©photo by Ryuji Sasaki

千早図書館のあゆみ

千早図書館長 鈴木 敦 (すずき あつし)

千早図書館は昭和46年6月1日に1万冊超える蔵書を持つ区内で3番目の図書館としてオープンしました。昨年の令和3年度に開館50周年を迎え、記念展示等を行いました。



千早図書館50周年記念ポストカード

図書館は道路に面して建てられたので、道行く人の誰もが、館内を見ることができました。受付(当時は「出納所」と呼んでいた)で入館閲覧券を受け取るとすぐに開架式の書庫で自由に図書を選ぶことができました。館内で閲覧するには受付で選んだ本と閲覧券のチェックを受けます。館外貸出するには豊島区内に住んでいるか通学・通勤先があることを証明するものを受付へ提示すると、その場で登録手続きができ、1回2冊10日間借りることができました。

オープン当初はまず児童書に力を入れており、児童室内に母親コーナーを作り、お子さんと読書できる環境が整えられていました。



開館20周年の平成3年度には一般公募・人気投票によって、千早図書館のシンボルマーク、きつねのちはやちゃんが誕生しました。千早図書館のアイドルは蔵書バーコードラベルにデザインされているほか、各種パンフレットや館内のディスプレイなど今でも変わらずに活躍し、皆さんに愛されています。

図書館のある千早及び周辺地域はかつて池袋モンパルナスと呼ばれ、多くのアトリエが存在していました。また近隣にはマンガ家の横山光輝氏が居住し、創作活動を繰り広げていました。こうした背景から現在図書館では文化・芸術や「横山光輝」をテーマにした特色のある図書館づくりを進めています。

開館から年を重ねるごとに、貸出業務等の電算化(平成4年)、貸出登録の住所要件廃止(平成7年)、日曜日の原則開館(平成11年)、祝日開館(平成19年)など図書館サービスの向上をはかってきました。

一方建物は年を追うごとに所々で傷みや不具合が顕在化してきました。老朽化してきている建物ですが、平成27年度の耐震補強工事で令和元年度の空調設備更新工事等を行い、利用者の方々にとってより安心快適な施設にしていけるよう日々努めております。

しかし築50年を過ぎ、エレベーターがない、書架の間が狭い等バリアフリーも十分でない施設です。区制90周年を迎える今年度、いよいよ千早図書館の改築・改修の検討が始まる予定です。すべての来館者の方が快適に利用でき、愛される施設となるよう整備してまいりますので、これからも千早図書館をよろしく願っています。

図書館カレンダー

開館時間 10月 文月 11月 葉月 12月 長月

○は土日祝の開館時間 ■は休館日

中央図書館	10月	11月	12月
平日	9:00-18:00	9:00-18:00	9:00-18:00
土日祝	10:00-16:00	10:00-16:00	10:00-16:00
平日	①	1 2 ③ 4 ⑤	1 2 ③
平日	② 3 4 5 6 7 ⑧	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	④ 5 6 7 8 9 ⑩
平日	⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮	⑬ ⑭ 15 16 17 18 ⑰	⑪ ⑫ 13 14 15 16 ⑰
平日	⑯ 17 18 19 20 21 ⑳	㉑ 21 22 ㉒ 23 24 ㉓ ㉔	⑱ 19 20 21 22 23 ㉔
平日	㉕ 24 25 26 27 28 ㉖	㉗ 28 29 30	㉙ 26 27 28 29 30 31
平日	⑳ 31		

駒込・上池袋・千早図書館	10月	11月	12月
平日	9:00-18:00	9:00-18:00	9:00-18:00
土日祝	10:00-16:00	10:00-16:00	10:00-16:00
平日	①	1 2 ③ 4 ⑤	1 2 ③
平日	② 3 4 5 6 7 ⑧	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	④ 5 6 7 8 9 ⑩
平日	⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮	⑬ ⑭ 15 16 17 18 ⑰	⑪ ⑫ 13 14 15 16 ⑰
平日	⑯ 17 18 19 20 21 ⑳	㉑ 21 22 ㉒ 23 24 ㉓ ㉔	⑱ 19 20 21 22 23 ㉔
平日	㉕ 24 25 26 27 28 ㉖	㉗ 28 29 30	㉙ 26 27 28 29 30 31
平日	⑳ 31		

柴崎・池袋・目黒図書館	10月	11月	12月
平日	9:00-18:00	9:00-18:00	9:00-18:00
土日祝	10:00-16:00	10:00-16:00	10:00-16:00
平日	①	1 2 ③ 4 ⑤	1 2 ③
平日	② 3 4 5 6 7 ⑧	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	④ 5 6 7 8 9 ⑩
平日	⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮	⑬ ⑭ 15 16 17 18 ⑰	⑪ ⑫ 13 14 15 16 ⑰
平日	⑯ 17 18 19 20 21 ⑳	㉑ 21 22 ㉒ 23 24 ㉓ ㉔	⑱ 19 20 21 22 23 ㉔
平日	㉕ 24 25 26 27 28 ㉖	㉗ 28 29 30	㉙ 26 27 28 29 30 31
平日	⑳ 31		

雑司が谷図書館	10月	11月	12月
平日	9:00-18:00	9:00-18:00	9:00-18:00
土日祝	10:00-16:00	10:00-16:00	10:00-16:00
平日	①	1 2 ③ 4 ⑤	1 2 ③
平日	② 3 4 5 6 7 ⑧	⑥ 7 8 9 10 11 ⑫	④ 5 6 7 8 9 ⑩
平日	⑨ ⑩ 11 12 13 14 ⑮	⑬ ⑭ 15 16 17 18 ⑰	⑪ ⑫ 13 14 15 16 ⑰
平日	⑯ 17 18 19 20 21 ⑳	㉑ 21 22 ㉒ 23 24 ㉓ ㉔	⑱ 19 20 21 22 23 ㉔
平日	㉕ 24 25 26 27 28 ㉖	㉗ 28 29 30	㉙ 26 27 28 29 30 31
平日	⑳ 31		

* 新型コロナウイルス感染症防止等のため、開館日時が変更となる場合がございます。

新航路 [62]

『にぎやかな公共図書館フェスティバル』が終わりました。

豊島区制90周年イベント「にぎやかな公共図書館フェスティバル」の開催にあたりましては、たくさんの方にお越しいただき本当にありがとうございました。おかげで大きな事故もなく、赤ちゃんから大人まで多くの方に文字・活字、そして映像を楽しんでいただけたのではないかと思います。会場でも、「楽しかったよ」とたくさんの方から声を掛けていただき、とても嬉しかったです。多くの企業、団体、ボランティアの皆様をはじめ多くの方に支えられたイベントでした。図書館ホームページに報告書掲載していますので、ぜひご覧ください。

この夏も、たくさんの方が図書館に来てくれました。子どもの声が図書館のフロアから聞こえると、ほっとした気持ちになります。時々、「帰りたい！」と泣いている子どもさんもいて、「ありがとう！」と心の中で叫んでしまいます。子どもの不読率(1冊も本を読まない割合)が課題と言われる中、小さな取組も忘れずに積み重ね、子どもにとって読んだことのない本や懐かしい本と出会う「好きな場所」に図書館もなればと思います。

大人の皆さんは、この夏の図書館、居心地はいかがでしたでしょうか。もちろん、大人の方にも、「帰りたい！」と言ってもらえる図書館になれば嬉しいことです。

図書館ナーに対するご意見を数多くいただいておりますが、読書の秋、寒い冬も近づいてきました。みなさんの心が温かくなる心地よい図書館になりますよう、周りの方の温かい気持ちと利用ナーにもご協力をお願いいたします。

「にぎやかな公共図書館フェスティバル」にご協力くださった企業、団体、ボランティアの皆さま

(株)ケイ・ブックス(執事喫茶Swallowtail)&執事のみなさま、(株)三省堂&深谷圭助先生、(株)サンシャインシネマ、りんごプロジェクト/NPO法人ヒーブルデザイン研究所、レイチェル・カーソン日本協会関東フォーラムあうるすぽっと(公財)しま未来文化財団、読み聞かせボランティア、点訳研究会、都立多摩図書館 みなさま、ありがとうございました!!

編集後記

久々に実家に帰省したら、庭に小学1年生の姪っ子の朝顔セットが置いてありました。1学期の終わりに鉢を自宅まで持ち帰り、夏休みに朝顔日記をつけたのを思い出しました。姪っ子の鉢は当時の朝顔のものに比べ、水やり用のペットボトルをつけられる機能がプラスされていました。姪っ子の朝顔日記を見ながら鉢のように時代とともに進化していくけれど、変わらない大切なものもあるんだなあ...と思いました。(坂)